

鹿児島県における複式学級増加の予測

八田明夫

Prospective of increase of Combined Class in Kagoshima Prefecture Hatta Akio

鹿児島大学教育学部

Faculty of Education, Kagoshima University

1 はじめに

複式学級指導は、単式学級の指導と違い複式授業を始めとする固有な指導法を必要としている。教員免許に必須の科目として「複式学級指導法」がある訳ではないので、複式学級の指導に関して自主的な知識習得をしなければいけない。特に始めて複式学級数を担当するとなると県の総合教育センターや地教委が解説する複式学級講座や移動講座などを受講することになる。現在複式学級がある学校を管轄する地教委は、転入教員に対する研修や学校の校内研修を把握し、転入者の複式学級指導について研鑽することができるように努力している。

北海道教育大学は道教委と共同で開発した複式学級指導の資料を希望に応じて配布してきたが、近年へき地ではなかった地域の学校から「複式学級を編成することになったので複式学級の指導資料を希望する」という要望が増加してきていることを明らかにしている（平成19年11月の「へき地教育を担う大学サミット」）。筆者も近年、鹿児島県で地域の学校から「あと数年で複式学級を編成する」という話を聴くようになった。こうした実態があることを実際の数値に基づいて考察する必要性から本論を執筆した。本論の結論も現場で感じている予測は現実のものであることを示している。

2 学級数と児童数の関係

5学級の小学校には1つの複式学級があるといえる（「なかよし学級」がない場合。以下同様）。児童数は各学級8名前後以下である。1学年8名平均の場合約48名の児童がいることになる。4学級の小学校には、2つの複式学級がある。1年生を含む場合1,2年で8名以下になるように複式学級を構成するので、1,2年生は単式である可能性が高い。4学級の小学校の児童数は各学年4名から8名（学校全体で24名から48名）と予測される。3学級の小学校は全学年複式学級である。児童数は各学年4名以下になりつつあり、全校で24名以下である可能性がある。

鹿児島県で251の小学校に複式学級があり、そのうち離島にある学校は94校、157校は県本土にある。県本土に小規模校が多いことがわかる。全校児童数79名以下の鹿児島市内の6校は、現在の所、単式学級だけだが、1学級あたりの児童数は平均10名以下であるため、複式学級編成の条件である2学年で16名に近づきつつある。そのような学校は転勤で複式学級の経験者が補充されない限り複式授業の経験者が校内にはいないので、始めて複式学級を担当する教員の研修などが必要となる。

3 鹿児島県の学級数と児童数

「鹿児島県教職員録」から鹿児島県の小学校における児童数と学級数の関係を調べた。全て単式である6学級については79名以下の学校を調べた。79名

以下でも7学級という学校は1つの学年が2学級ということは考えられないので、仲よし学級を含んだ学級数と判断した。児童数と学級数の関係を図1として示した。

グラフから5学級の学校は60名～30名であることから60名以下になると複式学級が編成される可能性があることを示している。従って、現在6学級であるが、全校児童数が60名以下の単式学級からなる小学校は、近い将来、3、4年生又は5、6年生が複式学級になる可能性がある。

図1で、6学級で児童数が48名以下の学校があるが、この学校は複式学級があるが、「なかよし学級」も含めて6学級である可能性がある。また、4学級で児童数24名以下の学校も「なかよし学級」がある可能性がある。

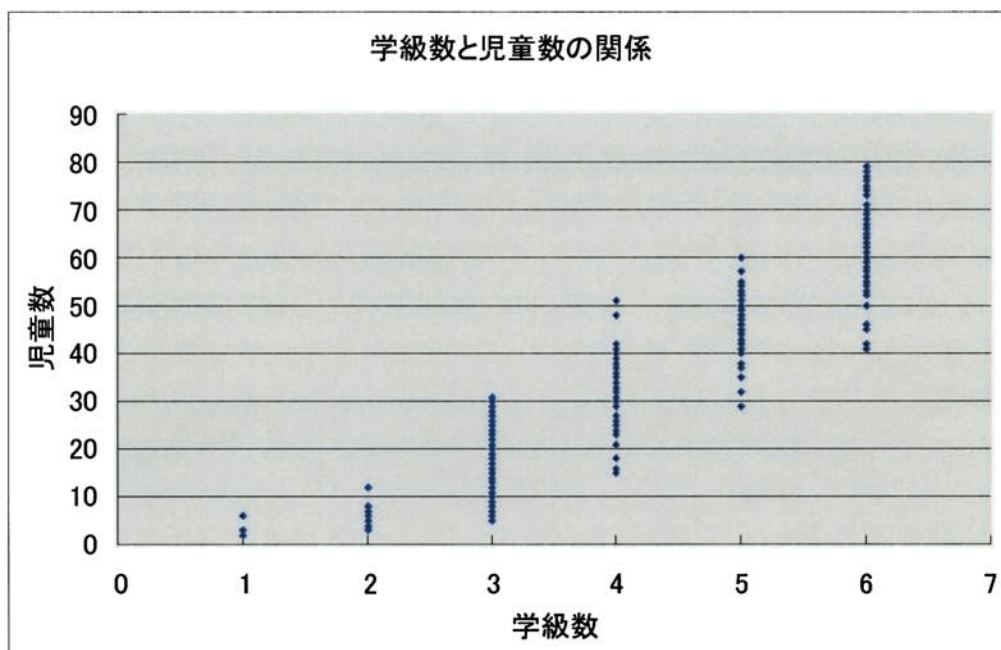


図1 児童数と学級数の関係 (6学級は79名以下だけ示した)

表1 複式学級のある小学校数と児童数79名以下の学校数

複式学級のある学校数	79名以下	複式学級のある学校数	79名以下
(鹿兒島市)	7	(曾於市)	10
(三島村)	4	(大崎町)	1
(十島村)	7	(垂水市)	4
(指宿市)	1	(鹿屋市)	10
(顛娃町)	2	(東串良町)	0
(枕崎市)	1	(肝付町)	3
(南さつま市)	12	(錦江町)	3
(知覧町)	2	(南大隅町)	9
(川辺町)	4	(西之表市)	7
(いちき串木野市)	5	(中種子町)	5
(日置市)	6	(南種子町)	7
(薩摩川内市)	27	(屋久島町)	4

(さつま町)	8	2	(奄美市)	12	3
(阿久根市)	3	3	(大和村)	5	1
(出水市)	5	0	(宇検村)	6	1
(長島町)	6	1	(瀬戸内町)	14	1
(大口市)	5	3	(龍郷町)	3	2
(菱刈町)	1	0	(喜界町)	6	2
(霧島市)	12	4	(徳之島町)	4	3
(加治木町)	1	1	(天城町)	3	1
(始良町)	2	0	(伊仙町)	5	1
(蒲生町)	2	0	(和泊町)	0	3
(湧水町)	1	2	(知名町)	2	1
(志布志市)	7	2	(与論町)	0	0

鹿児島県本土にも多くの複式学級を持った小規模校が存在している。

表1に鹿児島県内の複式学級のある小学校数と6学級で単式学級であることが予想される児童数79名以下の学校数を自治体別に示した。児童数が79名以下になった小学校は83校あった。鹿児島市、南さつま市、日置市、薩摩川内市、霧島市、曾於市、垂水市は4校以上の小学校が児童数79名以下になっており、複式学級を編成する時期が近い将来にある。薩摩川内市以外の地域は全て県本土の小学校で、薩摩川内市は市町村合併で甑島の地域を含むが、薩摩川内市の79名以下の小学校は、里小学校以外は全て県本土の小学校である。

このように、現在複式学級のある学校の分布とこれから複式学級を含む学校になる小学校の地理的分布が意味することは、複式学級は決して離島地域だけにあるのではないことである。離島地域にこれから複式学級を編成することが予想される学校が多くないのは、すでに複式学級を含む学校になっていることを表している。

引用文献

鹿児島県教育用品株式会社(2007): 鹿児島県教職員録 2007年版